

# バイクは停車中に 追突されることが多い

「バイクは車のドライバーから認識されにくい」

- 走行中は、対向車や大型車の影、ミラーの死角に入ることによって存在を認識するのが困難
- 停車中は、バイクは小柄なため、停車前の注意力が薄れたドライバーは、  
周囲の風景と同化してバイクの存在を認識しきれていない恐れ  
「ながら運転」・・・スマホ・カーナビ・・・交差点手前で減速中に、スマホ・カーナビに目が行く  
信号で停車中のバイクの見落とし！

2021/5/10(月) 9:00

2018年に内閣府が発表した「事故類型別交通事故発生件数」の中で、「追突事故」はもっとも多い割合である34.7%（14万9561件）を占めます。

その内、走行中に起こった1万3630件を除いた、残りの13万5931件は、全て停車中に起こった事故になりバイク事故も数のなかに含まれています。

では、なぜバイクは停車中に追突されやすいのか。

理由としては、「バイクは車のドライバーから認識されにくい」ということが主な原因と考えられます。

走行中は、対向車や大型車の影、ミラーの死角に入ることによって存在を認識するのが困難だけでなく、停車中は、車と違いバイクは小柄なため、停車前の注意力が薄れたドライバーは、周囲の風景と同化してバイクの存在を認識しきれていない恐れがあります。

運転中にスマホやカーナビを見ながら運転する「ながら運転」は、警察庁データによると2018年で2790件発生しており、このうち1698件は、車のカーナビの画面注視によるものです。

交差点で減速中に油断してカーナビに目線がいくことで、信号停車中のバイクの見落としにつながり追突してしまうケースもあります。

ほかにも、警察庁の発表した2020年の事故発生原因を法令違反別にまとめた中で、半数以上の56.5%を占めるのが「安全運転義務違反」、次いで「漫然運転」・「安全不確認」・「わき見運転」などが主要な違反行為として挙げられています。

ドライバーの運転操作ミスを指す「運転操作不適」は、周囲の状況を見落として反応が遅れたものも含まれています。